

クラウド会計の活用による中小企業会計デジタル・ トランスフォーメーション (DX) のケース・スタディ：序説

菅 原 智

近年、会計の分野において、先端デジタル技術（クラウド、ビッグ・データ、ブロック・チェーン、人工知能（AI））が重要な役割を担い、それらの導入（デジタル・トランスフォーメーション：DX）によって、実務が大きな影響を受けている。しかし、そのような先端デジタル技術による会計および会計実務がどのような影響を受けているか、未だ十分な研究が実施されてきていないと、先行研究（Cambridge 2018; Kotb et al. 2019; Moll and Yigitbasioglu 2019; Wells 2018）において指摘されている。このような中でも特にクラウド会計は、各国の多くの企業において採用されるようになってきており、会計実務におけるクラウド会計に関連する問題の把握が急務となっている。中でも、クラウド会計の採用により最もメリットを享受できるのは中小企業といわれている（Strauss et al. 2015）。しかし先行研究では、中小企業経営者のクラウド会計に対する意識について調査した研究は、これまでわずかしか存在していない（Asatiani et al 2019; Strauss et al. 2015; Yau-Yeung et al 2020）。特に日本の中小企業や経営者を対象とした研究については、菅原・加納（2022）が実証研究を行なっているが、サンプル数が限定されており、結果の一般化が難しく、異なる研究方法を用いた多様な研究の実施が求められると考えられた。

そこで私たちは、当該企画論文において、地方都市で活躍するベンチャー企業や地方公共団体を対象として、クラウド会計の採用状況をケース・スタディすることを試みた。また、クラウド会計採用企業だけではなく、クラウドを導入していない企業の実態把握が必要であると考え、クラウド会計未導入企業がどのような導入プロセスを辿る

のか、あるいは導入しない要因は何であるかについても調査を行った。さらに私たちは、中小企業が実際に所在する各地域の地方公共団体におけるDXの状況も、彼ら自身のDX化に影響を与えると考え、地方公共団体のDX推進状況についても調査を行った。

研究方法としては、探索的研究手法を採用した。各論文において、特定の仮説を事前に設定しているわけではなく、関係者に対するインタビューにより質的データを収集・分析することで当該クラウド会計採用という現象に潜む理論を帰納的に導出することを試みる。残念ながら、本企画論文では扱うことのできる対象の数に限りがあるため、一般化できる完成された理論を導くことができなかつたかも知れないが、少なくともたたき台となりうる理論モデルを提供できたと考えている。以下では、各論文の要約を示す。

第1に、笠岡論文「大学発ベンチャー企業におけるクラウド会計の導入－徳島県鳴門市において昆虫食を通じた食糧問題解決を目指す株式会社グリラスを事例として－」においては、徳島大学発のベンチャー企業である株式会社グリラスを対象として、小規模非上場企業におけるクラウド会計の導入経緯と現状を調査している。大学発ベンチャー企業では、ベンチャーキャピタルの紹介により入社した財務経験者が経理を担当し、将来を見据えた会計システムの見直しおよびクラウド会計の導入を行っていた。会社のスタートアップ時点からクラウド会計を導入したことで、会社に適した会計システムを効果的にカスタマイズできるという利点をうまく活用し、業務の効率化を図れたことが明らかとなった。当初より株式上場を見

据えた企業であるため、規模の拡大や会社組織の複雑化がこれから進んでいく中で、どのようにクラウド会計を会社経営プロセスに融合させていくか大きな関心を寄せることができる。

第2に、内藤論文「地域に根ざした企業におけるクラウド会計活用事例—青森県三八上北地方と世界を繋ぐ中小企業—」においては、情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT）の活動が少ない、インフラが貧弱な地域やインターネット利用者がパソコンを利用のための機器としていない割合が高い地域に所在する中小企業・小規模事業者2社を対象とし、経営者が遠隔地でクラウド会計を活用する利便性や課題を検討している。結果としては、地理的に有利とはいえない地域においても、先駆的な経営者はクラウド会計を導入し効果的な経営を行なっていることを明らかとした。特に、一般的に考えられている小規模事業者の資金的・人材不足という制約については、適時に個人のネットワークや顧問税理士と情報共有・収集を行うことで、問題なくクラウド会計を導入できることを証明している。また、顧問税理士との関係についても、地理的な距離よりもコミュニケーションの取りやすさが重要であると分析している。

第3に、菅原論文「農業経営法人におけるクラウド会計活用事例—岩手県遠野で農業を介したまちおこしに奮闘する BEER EXPERIENCE 株式会社—」においては、農業経営を株式会社形態で営んでいる小規模法人におけるクラウド会計の採用事例を分析し、クラウド会計を導入した経緯や目的、導入の利点・欠点などを検討している。分析の結果は、地方にある零細企業であってもクラウド会計を経営者が主体的に導入を決め運用を始められることが明らかとなった。この時、会社側の顧問税理士に会社が求める役割が変化し、記帳代行というよりも、より経営的判断や意思決定に関わるサービスを求めるようになると考えられた。企業と関わる会計専門家側についても、企業の問題点を共有し、業務内容や力点を変えていかなければいけないことが明らかとなった。

第4に、加納論文「中小企業におけるクラウド会計の導入要因とリスクに関する探索的研究：4

事例のケース・スタディにもとづいて」においては、クラウド会計を導入していない4社のケース・スタディを行うことで、クラウド会計導入を巡る導入決定に与える影響要因を特定しようと試みている。分析の結果、以下のような3つの影響要因を特定した。第一の要因としては、経営上の課題がすでに存在し、その課題解決策としてクラウド会計導入を選択するケースが示されていた。第二の要因としては、導入タイミングとして経営者・経理担当者および顧問会計士の交代などが影響を与える可能性が指摘されていた。最後の第三の要因としては、クラウド会計導入を阻止する大きな要因として従業員らの抵抗や彼らへの配慮、さらには取引先企業等の外部関係者との連携を図る中での抵抗や配慮がクラウド会計導入を進めるにあたっての大きな障壁になる可能性を指摘している。

第5に、児島論文「地方公共団体のDX推進とクラウド公会計」においては、地方公共団体におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）推進事例として地方公会計に対するクラウド会計導入についての考察がなされている。ケース・スタディとして兵庫県豊岡市役所のDX推進事例を対象として分析が行われた。結果としては、クラウド会計を地方公共団体に導入することの重要性は認識しているものの、予算制約によって、直接的に住民サービスを向上させる効果が期待されるような喫緊の課題に資源を投入せざるを得ないというジレンマに直面していることが明らかとなった。

以上のように、多岐にわたる形態や業種の中小企業および組織を対象としてクラウド会計導入の背景、導入が与える影響要因、展望を分析した。限られたサンプルの中での分析であるため、当該企画論文でクラウド会計導入問題の一般化が達成されたとは考えられない。しかしながら、当該問題の今後の議論をデザインするための出発点を提供できたのではないかと考えている。今後は、より多様なデータを活用し、かつ多彩な研究方法論を適用して、検討を深めていかなければならない。

引用文献

- Asatiani, A., Apte, U., Penttinen, E., Ronkko, M., and Saarinen, T. 2019. Impact of accounting process characteristics on accounting outsourcing – Comparison of users and non-users of cloud-based accounting information systems, *International Journal of Accounting Information Systems*, 34: 1-8.
- Cambridge, J. 2018. *Cloud Business and Closing the Gap Between Accounting Theory and Practice: A Case Study of Accountingpod*. Available at: SSRN: <https://ssrn.com/abstract=3317955> or <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.3317955>.
- Kotb, A., Abdel-Kader, M., Allam, A., Halabi, H., and Franklin, E. 2019. Information technology in the British and Irish undergraduate accounting degrees. *Accounting Education*, 28 (5): 445-464.
- Moll, J., and Yigitbasioglu, O. 2019. The role of internet-related technologies in shaping the work of accountants: New directions for accounting research. *The British Accounting Review*, 51 (6): 1-20.
- Strauss, E., Kristandl, G., and Quinn, M. 2015. The effects of cloud technology on management accounting and decision making, *CIMA Research executive summary series*: 10 (6).
- Yau-Yeung, D., Yigitbasioglu, O., and Green, P. 2020. Cloud accounting risks and mitigation strategies: evidence from Australia, *Accounting Forum*, 44 (4): 421-446, DOI: 10.1080/01559982.2020.1783047.
- Wells, P. K. 2018. How well do our introductory accounting text books reflect current accounting practice? *Journal of Accounting Education*, 42: 40-48.
- 菅原・加納（2022）「日本の中小企業におけるクラウド会計導入に関する意識調査」『中小企業会計研究』第2022 巻第 8 号 pp.2-13.

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP21K01816 の助成を受けて実施した。